


特許協力条約

発信人 日本国特許庁（国際調査機関）

出願人代理人 三好 秀和 あて名 〒 105-0001 東京都港区虎ノ門1丁目2番3号 虎ノ門第1ビル9階				Written Opinion of the ISA PCT 国際調査機関の見解書 （法施行規則第40条の2） 【PCT規則43の2.1】	
出願人又は代理人 の書類記号 J T O R Y U - 1 - P C T		発送日 （日.月.年） 28. 9. 2004			
国際出願番号 PCT/J P 2004/011899		国際出願日 （日.月.年） 19. 08. 2004		優先日 （日.月.年） 27. 08. 2003	
国際特許分類（IPC） Int. Cl. 7 G06F17/60					
出願人（氏名又は名称） 株式会社トーリューモン					

1. この見解書は次の内容を含む。

- ☒ 第I欄 見解の基礎
☐ 第II欄 優先権
☐ 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成
☐ 第IV欄 発明の単一性の欠如
☒ 第V欄 PCT規則43の2.1(a)(i)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
☐ 第VI欄 ある種の引用文献
☐ 第VII欄 国際出願の不備
☐ 第VIII欄 国際出願に対する意見

2. 今後の手続き

国際予備審査の請求がされた場合は、出願人がこの国際調査機関とは異なる国際予備審査機関を選択し、かつ、その国際予備審査機関がPCT規則66.1の2(b)の規定に基づいて国際調査機関の見解書を国際予備審査機関の見解書とみなさない旨を国際事務局に通知していた場合を除いて、この見解書は国際予備審査機関の最初の見解書とみなされる。

この見解書が上記のように国際予備審査機関の見解書とみなされる場合、様式PCT/ISA/220を送付した日から3月又は優先日から22月のうちいずれか遅く満了する期限が経過するまでに、出願人は国際予備審査機関に、適当な場合は補正書とともに、答弁書を提出することができる。

さらなる選択肢は、様式PCT/ISA/220を参照すること。

3. さらなる詳細は、様式PCT/ISA/220の備考を参照すること。

見解書を作成した日 14. 09. 2004			
名称及びあて先 日本国特許庁（ISA/J P） 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号		特許庁審査官（権限のある職員） 山下 達也 電話番号 03-3581-1101 内線 3560	
		5 L	9 6 4 5

様式PCT/ISA/237（表紙）（2004年1月）

第 I 欄 見解の基礎

1. この見解書は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎として作成された。

- ☐ この見解書は、_____ 語による翻訳文を基礎として作成した。
それは国際調査のために提出された P C T 規則 12.3 及び 23.1(b) にいう翻訳文の言語である。

2. この国際出願で開示されかつ請求の範囲に係る発明に不可欠なヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、以下に基づき見解書を作成した。

- a. タイプ ☐ 配列表
☐ 配列表に関連するテーブル
- b. フォーマット ☐ 書面
☐ コンピュータ読み取り可能な形式
- c. 提出時期 ☐ 出願時の国際出願に含まれる
☐ この国際出願と共にコンピュータ読み取り可能な形式により提出された
☐ 出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出された

3. ☐ さらに、配列表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出した配列が出願時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった。

4. 補足意見：

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についてのPCT規則43の2.1(a)(i)に定める見解、
それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	1 - 6	有 無
	請求の範囲		
進歩性 (IS)	請求の範囲		有 無
	請求の範囲	1 - 6	
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲	1 - 6	有 無
	請求の範囲		

2. 文献及び説明

- 文献1：JP 2002-373214 A (藤原 大蔵)
2002. 12. 26, 全文, 全図
- 文献2：星野寛, コンテンツの複合的権利記述による権利保護と流通支援,
情報処理学会研究報告, 日本, 社団法人情報処理学会,
1998年9月19日, 第98巻 第85号, 1~8
- 文献3：JP 9-73487 A (富士通株式会社)
1997. 03. 18, 全文, 全図
- 文献4：JP 2003-228635 A (社団法人日本音楽著作権協会)
2003. 08. 15, 【0004】 - 【0005】
- 文献5：JP 11-353320 A (オムロン株式会社)
1999. 12. 24, 【0060】

請求の範囲第1、3、5、6項

文献1には、権利保有者から著作物、著作物に関する事実関係、著作物に関する権利関係（実演家等の有する著作隣接権を含む）、及び、著作物の利用条件の情報の入力を受けて、これらをデータベースに登録し、公開して、当該著作物の利用を希望するユーザからのアクセスによる利用契約の締結を支援するシステムが記載されている。

また、文献2には、コンテンツの流通支援において、権利者が登録した利用条件についても、利用者が希望するコンテンツを探す際に検索の対象とできるシステムが記載されている。

また、文献3には、コンテンツの販売による売上金について、コンテンツの著作権者及び実演家等の著作隣接権保有者等、権利を有する者に所定の比率で分配し、支払いを行うシステムが記載されている。

請求の範囲第2項

文献4には、著作権管理団体が著作権者の委託を受けて著作権使用料の徴収等を行うことが一般に行われていることが記載されており、これらを対象にして支払等を行うことは適宜採用し得ることである。

補充欄

いずれかの欄の大きさが足りない場合

第 V 欄の続き

請求の範囲第 4 項

文献 5 には、コンテンツである画像データの販売の際に、売買契約データをユーザに提供することが記載されている。